

総合学習年間プラン実践例 ― 5 年 ―

1 単元名 「地球人として 自分は今・・・」

- 2 目 標 ・地球上に起こっている様々な環境問題をはじめ、飢餓、貧困、差別、平和などの諸問題を自分たちの問題として知ることを通して、同じ地球上に住む一人として何ができるかということを考え、自分なりに追求していききたい課題を見つけ、1年間の学習の見通しを持つことができる。

3 指導にあたって

(1) 総合学習年間プランについて

本年度の学級プランの大きな柱は「マイ ペイ・フォワードを求めて」である。この「マイ ペイ・フォワードを求めて」とは、危機的状況にあるわたしたち宇宙船地球号に対して、自分なりに何ができるか考え、計画し、具体的に行動に移していこうとすることを指す。本プランの意義の一つは、自分たちのくらしと地球環境の実態や世界の人々の貧困の実態とが密接につながっていることを深く認識することにある。もう一つは、その認識した環境問題をはじめとした諸問題を自分なりの特技を生かして周りに伝えたり、貢献していこうとしたりする中で、問題解決力をはじめとして、情報活用能力、企画力、コミュニケーション能力、表現力や行動力を身につけていくことにある。そして、これらの一連の活動を『5年3組ペイフォワードシネマ』としてビデオ編集し、全校に広めていくつもりである。

5年3組総合学習年間プラン 《学級テーマ》

宇宙船地球号救うのは愛モード！

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
環境的 人間的 文化的 その他の視点	<p>＜学年プラン＞ 100年後の厚川を 考えてみよう！ (12)</p> <p>＜学級プラン＞ 1本のバナナ から地球が 見える！？ (10)</p> <p>＜学級プラン＞ 5年3組ペイフォワード シネマを作ろう！ (10)</p> <p>＜学級プラン＞ 地球人として自分 は今・・・ (7)</p> <p>年間学級プラン「マイ・ペイフォワードを求めて」 (15)</p> <p>＜学年プラン＞ クリエイティブ・イベント 「6年生を送る会 in 2002」 (12)</p>										
情報 英語	<p>＜川博士とメール しよう＞ (8)</p> <p>＜ホラジテイザの人と メールしよう＞ (8)</p> <p>＜私のペイフォワードを ホームページで＞ (8)</p> <p>＜使える英語＞ (20)</p>										

(2) 単元設定について

本単元は、上記の総合プランの導入にあたる部分である。すなわち、子どもたちの総合学習に対する思いや願いを明確にし、年間の学習の見通しを立てるという位置づけの単元である。

まず、子どもたちに今までやってきた総合学習で心に残った活動を出し合いながら、今年一年間の総合学習に対する思いや願いを交流し合うことにする。この段階までは、過去の学習体験の範疇でしか思いや願いは出てこない。そこで、次に、教師の方からは、宇宙船地球号の様々な実態をわかりやすい映像や手法を用いて実感できるようにし、子どもたちが地球人としての自覚を持てるようにしたい。すなわち、私たちが暮らしている地球は限りなく美しいが、その実態は環境問題、飢餓、貧困、差別、平和に関わる諸問題が渦巻いている現実を、できるだけ自分の事に置き換えてイメージできるようにして伝え、みな同じ宇宙船地球号の乗組員であり、何とかしてこの宇宙船地球号を守っていききたいという思いを持てるようにしたい。その上で、今年一年間、総合学習で追求していききたい自分なりのテーマを持つことができるようにするとともに、そのテーマを年間を通して伝えていくプランとして「マイ ペイフォワード プラン」を立案できるようにしたい。これらの活動を通して、同じ地球人としてのつながりを意識できる感性や自分なりの特技や特性を生かしたプラン作成にあたっての企画力、表現力を培っていききたいと考える。

学びを深めるために

① 一人一人の地球の現実に対する切実感が持てるような場の設定を工夫する

子どもたちに「自分は宇宙船地球号の乗組員の一員なんだ！」という思いをしっかりと心に刻み込むために、リアルな美しい地球の映像をはじめ、地球温暖化やオゾン層破壊が一目で

分かる視聴覚資料などを駆使したり、「5年3組を地球にたとえたら」というテーマで人口60億人をクラスの児童数37名に圧縮し身近な形で人口比率を伝える場を設定したり、などの工夫をすることで、子どもたちに地球人の自覚を持たせていきたい。この場で得た驚きや感動が、年間テーマを考える大きな源になると考えている。

② 一人一人のテーマにかかわる素朴な考えの表現を促す

教師から伝えられたメッセージから出た素朴な驚きや感動、ショックを授業ごとにカードに記録させたり、その思いを素直に全体の場に発言の形で出すように促したりすることで、自分のこれからの総合学習における活動の方向性に気づくきっかけにしていきたい。

③ 子どもが獲得した学級総合に対する思いや願いの共有化を図る

地球の実態をお互い知る過程の中で感じたことや思ったことなどは個々に違うはずである。授業の終わりや次時のはじめに思いを伝え合う場を設けたり、座席表の中に各自の思いを書いたものを配布し、それをじっくり見合う場を保障したりすることでお互いの思いを共有し合う場としていきたい。また、各自が今年一年間の学級総合のテーマを持つ際も、各自がどんなことを地球人の一人としてやっていきたいのか、今度はポスターセッションの形でお互いの考えや思いを交流する場を設け、各自のそのテーマを思いついた動機や活動の見通しなどを情報交換し合い、今一度自分のテーマを見つめ直す場としたい。

④ 子ども自身のテーマにかかわる思いの変容の自覚を促す

地球の実態に対する思いは常に授業の終わりにプリントに書き留めたり、各自の思いを載せた座席表をファイルし、それらを見つめ直すことで個々の地球に対する切実な思いの変容や追求していきたいテーマの変容を自分なりにつかませていきたい。また、TTの体制を組みながら、子どもたちの表情をビデオで観察及び編集することで、各自のテーマにかかわる思いがどれほど真剣に表情や仕草に表れているのか自己評価や他者評価にもつなげていきたい。

単元計画（総時数 7 時間）

主 な 活 動 と 内 容	学びを深めるために	主な評価ポイント
<p>1 3～4年時の学習を想起しながら今年の自分なりのめあてを持つ <3～4年生の時の総合学習で思い出に残っているのは何？> ・和菓子の学習 ・お茶の学習 ・野田山博士…etc. <今年の総合学習ではどんなことをしてみたいですか？> ・世界の〇〇を調べてみたい ・日本の名物を食べてみたい ・映画を作ってみたい ・ボランティアしてみたい…etc. ・先生の話も聞いた上で総合学習の方向を考えてみよう</p>	①	<p>過去の総合学習をもとにしながら自分なりに学級総合の願いを持つことができたか</p>
<p>2 教師からの地球の実態を知らせるメッセージを受け取る <今の地球の実態を一緒に心で感じてみよう> ・5年3組を地球に例えて、人口比率の実態を知る ・地球環境の実態をおおまかに知る ・飢餓、貧困、差別の問題を知る ・宇宙船地球号はまさにタイタニック号だ！</p>	①②④	<p>地球人としての自覚を持つことができたか</p>
宇宙船地球号の乗組員としてふさわしい学級総合テーマを考えよう		
<p>3 自分なりのテーマを持ち、交流し合う <地球人として自分ができることは何だろう> ・ぼくは〇〇の問題を追求していきたい ・私はボランティアしている人とふれあって自分のできることを見つけていきたい ・身近な環境をくわしく調べてそれを周りの人に伝えたい ・〇〇さんのテーマはこれから行動していく上でとても参考になったな ・身近な環境を調べようという友だちがいたので一緒にやっていけたらいいな</p>	①②③④	<p>今までのメッセージをもとに地球人として自分なりのテーマを持つことができたか</p>
<p>4 学級総合の計画と学級テーマをまとめる ・1学期はいろんな問題を調べよう ・2学期はボランティアの人とふれあおう ・3学期にわたしたちの活動を映画にまとめよう ・「宇宙船地球号 救うのは愛モード」が5年3組のテーマだ！</p>	②③④	<p>自分なりに年間の大まかな見通しが持てたか</p>

4 本单元における授業の実際と考察

本单元では、今年一年間の学級総合に対する思いや願いを教師も子どもたちも共に出し合い、交流し合うことにより、自分なりの課題を明確にするとともに年間の総合学習の見通しをたてることをねらっている。まずは、3～4年時の総合学習をもとに、今年新たに何をしたいのか、子どもそれぞれの思いが持てたかについて考察する。次に、教師からの環境問題を中心とした地球上に渦巻く諸問題のメッセージに対して、子どもたちはどのような思いを持っていったのか、その変容をワークシートや座席表プリントをもとに追っていく。特に、地球人としての自覚が持てたかどうかについて考察していきたい。そして、最後に、自分なりの課題が持てたか、年間の見通しが持てたかどうかについて、教師のメッセージの与え方や評価の生かし方と絡めながら、考察していきたい。

(1) 学級総合との出会い

過去の総合学習をもとにしながら自分なりに学級総合の願いを持つことができたか

まずは、今まで行ってきた総合学習で思い出に残っている单元名を子どもたちに聞いてみた。

「外国の人と仲良くなろう」「和菓子づくり」「野田山博士になろう」「広げよう 日本の作法」……。次々と意見が出てきた。さらに、どうしてその单元が心に残っているか聞いてみたところ、「いろんな体験ができるから。」「日ごろの授業ではできないことを学習するから。」「自分のやりたいことがわりと自由にできるから。」というような理由が出された。このことから、子どもたちは、どの子も総合学習を好意的に受け止めており、体験的な学習や個に任された学習を待ち望んでいることがわかる。

これらの話を受けて、＜今年の総合学習ではどんなことをしてみたいですか？＞と今年度の総合学習に対する各自の思いや願いを尋ねてみたところ、以下のような意見が出された。

- ・日本各地の名物を調べてみたい
- ・日本や世界の代表的な料理を調べたり作ってみたりしたい
- ・世界遺産について調べまとめてみたい
- ・世界の貨幣についてその由来や価値などを調べたり、集めたりしたい
- ・役立つモノを発明した人をくわしく調べて、その生き方について学びたい
- ・世界各国の王様の歴史や人物像を調べてみたい
- ・人に役立つボランティアなどしてみたい
- ・いろんな映画を鑑賞したり、映画そのものをクラスで作成してみたい

活発に意見を出してきた子どもたちは、クラスの約半数ほどで、やや限られた子どもだけの発言であった。この子たちは、今までの総合学習で味わった「食体験」「世界とのふれあい体験」「インターネットや図鑑で調べた活動」などをもとに自分の興味・関心と結びつけて発言していたように思われる。それに対して、発言しなかった子どもたちは、次の2通りに分けられる。

一つ目は、自分なりの思いがあるのに全体の場に出さない子どもである。T児などは、ノートに「日本の鉄道の歴史」という考えをノートに書いてあったのだが、まだクラス替えがあって1ヶ月足らずなので、雰囲気になれず、全体の場に意見を出すのをためらっていたようである。特に女子にその傾向が強く現れていた。

二つ目は、総合学習に対して自分なりの思いや願いが全く持てなかった子である。つまり、発言もせず、ノートにも書いていなかった子が37名中12名いたのである。クラスの約3分の1という人数である。この実態については次のようなことが推察ができる。まず、突然何をしたいかと聞かれても困惑しただけであったというケースが考えられる。もう一つは、今までの総合学



学級総合への自分の願いや思いを出し合う様子

習はテーマ設定型という教師側からテーマを提示されて学習がすすめられた形態であり、自分自身にテーマを任されたという経験がほとんどないため、自分の意見が持てなかったというケースが考えられる。自分から求めていくというよりも、人から方向性を与えられて初めて動く子どもたちが少なからずいるという実態が浮きぼりになったともいえる。

この段階では、子どもたちの願いやアイデアを出すだけにとどめておいたのだが、子どもたちの出された意見の中で、反応のよかったものは、[映画づくり][ボランティア][世界の代表的な料理]の3つであった。しかし、全体的にいえるのは、決して強い要望というものではなく、「やれるものならやってみてもいいなあ」「先生の考えも聞かせてほしいなあ」という雰囲気の方が強く感じられた。そこで、次時は教師のメッセージも聞いてみた上で、もう一度今年の総合学習のあり方を考えることを確認し合うことにした。

(2) 地球からのメッセージ

地球人としての自覚が持つことができたか

① 人口比率のメッセージから

5年3組を地球とたとえるなら・・・

この地球上の人間の総人口は何人か知っていますか？ 実は、約60億人です。では、この地球を5年3組だとしましょう。60億人の人口を5年3組の人口37人に圧縮してみます。すると、次のような統計が出てきます。みなさんもいっしょに考えてみましょう。

男は 18 人 女は 19 人

有色人種は 26 人 白人は 11 人

アジアは 21 人 ヨーロッパは 7 人
★ 南北アメリカは 5 人 アフリカ 3 人

★ 世界の財産の3分の2を持つ人は 2 人
★ (その人はいずれも②③④の人です)

家が雨漏りする人は 30 人
文字が読めない人は 26 人
栄養失調の人は 19 人

今にも死にそうな人は 0.3 人
今にも生まれそうな人は 0.3 人
大学まで行く人は 0.3 人
コンピュータを持つ人は 0.3 人

★ 家に壁紙あり、冷蔵庫に食物あり、服がある人は 9 人

銀行に預金あり、財布にお金ある人は 3 人

最初の子どもたちへのメッセージは左にある「5年3組を地球とたとえるなら・・・」のプリントにあるように、60億人という地球上の人口を5年3組37人の人口に圧縮した場合の資料を提示した。子どもたちに配布した資料には、数字は抜いてあり、どんな数が入るか予想を立てながら、事実を示していった。

「栄養失調の人が半分もいるなんて・・・」
「雨漏りする家は人口の8割を占めるとは!？」
「大学へいったりコンピュータを持つ人があまりにわずかなのでびっくり!」
という驚きとショックの声があちこちからもれ聞こえてきた。授業の終わりに感想を書かせてみると、次のような思いを持つにいった。

S 児 世界のほとんどの人が 苦しい生活をしていること を知りかわいそうに思いま した。僕達はとても幸せな んだな	K 児 家でいつも不平不満 言っているけど、とて もいい暮らしをしてい るんだと思いました。
I 児 世界の人がこんなに苦しい 思いをしていると初めて知 りました! できることなら ボランティアで助けてあげ たいと思いました。	Y 児 すごく変に感じた。0.3 人とか食べれない人が いるとか・・・。

子どもに配布した人口比率資料

子どもの感想より

S児のように驚きを持つ子が大半を占め、K児のように自分のくらしを改めて見つめ直す子やI児のような何か役立つことはできないかという思いを持つ子も少なからずいた。中には、Y児のようにまだ真実味を帯びず違和感を覚える子もわずかながらいたようである。クラス全体の傾向をまとめると以下ようになる。

- ・ 貧しい人々の比率の多さに驚く ・・・・ 18 人 (S児を含む)
- ・ 豊かな人々の少なさに驚く ・・・・ 6 人
- ・ 今のくらしに感謝および反省する ・・・・ 5 人 (K児を含む)
- ・ 何かできることはないか考える ・・・・ 5 人 (I児を含む)
- ・ 違和感を覚えたり真実味を感じない ・・・・ 3 人 (Y児を含む)

クラスの9割以上の子にはかなりインパクトを与えるメッセージだったように思われる。やはり、クラスの人数に置き換え、海外のようすの写真資料などを提示したのが子どもたちの心に訴えかけるものがあったように思われる。反面、まだ違和感を覚える子は、今の自分のくらしとあまりにかけはなれた事実なため、素直に心の中に受け入れられなかったものと思われる。

② 地球温暖化・オゾン層破壊のメッセージから

前時の感想が書かれた座席表を提示しながらお互いの思いを交流し合い、自分たちも同じ地球人ということを確認した上で、この地球ではどのような現象が起きているか、地球温暖化とオゾン層破壊の実態をビデオやOHPなどの視覚を訴える資料を通して伝えることにした。提示した主な資料は次の通りである。

<地球温暖化関係資料>

- ・南極、北極、世界の氷河の実態ビデオ (NHK)
- ・温暖化で考えられる被害の資料
- ・金沢市の過去100年の気温変化のグラフ (気象協会の資料)



金沢の温暖化を示すグラフ



オーストラリアの子どもたち



フロン製品についての説明の様子

- ・アメリカCOP6脱退記事 (北国新聞)
- ・世界のCO₂排出量のグラフ (同上)

<オゾン層破壊関係資料>

- ・オーストラリアの子どもの写真 (読売新聞)
- ・紫外線の被害のビデオ (フジTV「あるある大辞典」)
- ・フロン製品の資料
- ・オゾン層破壊システム解説ビデオ (NHK)
- ・フロン生産量のグラフ (「地球大予測」サンマーク出版)

子どもたちは、ビデオやOHPに写し出された資料に目を釘づけにされていた。世界中の氷がとけていくシーンや金沢の気温がここ10年で明らかに上昇している様子、オゾン層破壊による紫外線被害が間近に迫っている事実、そして何よりこのような事態と自分のくらしのあり方とが大きく関係していることを知り、子どもたちなりに真剣な面持ちで考え込む者も多くいた。

ワークシートに書いた感想をいくつか紹介する。

<p>I 児 「隊長！世界はぜいたくすぎます。今から止めさせましょう」とよびかける運動をしたいと思います。</p>	<p>Y 児 ゴミを昔のように減らすなどCO₂を減らす活動をしていけばいい。</p>
<p>A 児 CO₂を出すということは地球にも人類にも害を与えてしまう。ゴミ、電気、テレビの見過ぎに気を付けたい。</p>	<p>B 児 これから電気の付けっぱなしに気を付けたい。今から100年後の地球はものすごい変化が起こるんだな。</p>

子どもの感想より

I児は、前述①で紹介した子である。この段階でも何かできることはないかと前向きな気持ちでいることが分かる。Y児、A児、B児の3人は、①の段階では違和感を覚えたり真実味をあまり感じなかったのだが、この段階にきて自分なりに何かしようという思いを持つようになってきていることが分かる。今回のメッセージを受けて、クラスの16名、つまり半数近くの子が自分なりに何かしていきたいという思いを持つようになってきている。①の段階の5人から3倍以上に増えたことになる。これはやはり具体的な資料の提示を通して、飢餓・貧困の問題や環境問題と身近なくらしとは直結した問題であることを自覚できたことがこの変容につながったのだと思われる。クラス全体の傾向は以下の通りである。

- ・何とか自分なりに行動していく・・・16名
- ・驚きとこれからの不安・・・11名
- ・アメリカなど非協力の人々を批判・・・8名 (欠席2名)

以上のことから、①から②の段階を経ることにより、一人一人が地球人として「このままではいけない」「何とか自分なりにしていきたい」という自覚を持つことができたと思う。

(3) マイ ペイ・フォワード プランを交流し合おう

今までのメッセージをもとに地球人として自分なりのテーマを持つことができたか

① ポスターセッションを通して

教師のメッセージを受け、何か行動していきたいという思いが強くなってきたところで、子どもたちに次のような働きかけをした。

○宇宙船地球号はタイタニック号と同じ状態であり、乗組み員として自分は何ができるかについて考えること

○ペイフォワードの意味を伝え、実際それを行動にうつしている人を紹介したこと

このような働きかけを受けて、子どもたちは、「どんな環境問題を切り口にして取り組むか」「それをどのようなやり方や方法で取り組むか」（以上2つのことを合わせて各自の学級総合のテーマとする）を自分なりに考え、一枚の紙に企画書をポスターセッションの用紙に書きあらわすことにした。各人各様いろいろなアイディアが出てきた。例えば、次のようなものがある。

- ・オゾン層破壊の原因と防止方法を切り口に絵やポスターという方法で伝えていきたい
 - ・酸性雨の実態について、劇で表したい
 - ・貧しい人々のために募金活動やボランティア活動を展開していきたい・・・etc.
- クラス全員の学級総合のテーマを座席表にまとめると以下のようなになる。

5年3組座席表 総合学習「子どもたちのプランと切り口」感想（5／18）

<div>()</div> <div>わたしたちができるボランティア</div> <div>飢餓と貧困について</div>	<div>()</div> <div>折り紙マンガ</div> <div>遠伝子組み替え食品について</div>	<div>()</div> <div>絵で伝えたい</div> <div>紫外線の影響について</div>	<div>()</div> <div>サッカーストーリーマンガ</div> <div>大気汚染について</div>	<div>()</div> <div>バイオリンとポストロンを出さない方法について</div>	<div>()</div> <div>ポスターや絵で</div> <div>フロンを発生させない方法について</div>
<div>()</div> <div>レースマンガで伝える</div> <div>オゾン層破壊について</div>	<div>()</div> <div>赤ちゃんのはだを守る方法</div> <div>オゾン層破壊について</div>	<div>()</div> <div>テレビなどでよびかけ</div> <div>酸性雨の原因ととめる方法について</div>	<div>()</div> <div>ボランティア活動</div> <div>栄養失調になる子どもたちについて</div>	<div>()</div> <div>Jリーガーが酸性雨であぶない</div> <div>電磁波の出る電磁波について</div>	<div>()</div> <div>ポスターで伝える</div> <div>オゾン層破壊について</div>
<div>()</div> <div>募金活動をする</div> <div>栄養失調の人々がうまれる原因について</div>	<div>()</div> <div>新聞づくりで広める</div> <div>酸性雨について</div>	<div>()</div> <div>募金活動をする</div> <div>栄養失調の人々がうまれる原因について</div>	<div>()</div> <div>絵やポスター</div> <div>栄養失調の人と食べ物との関係を探てみたい！</div>	<div>()</div> <div>ポスター&CM</div> <div>オゾン層を守る方法について</div>	<div>()</div> <div>絵やポスター</div> <div>地球温暖化について</div>
<div>()</div> <div>スポーツになぞらえた劇で伝える</div> <div>酸性雨について</div>	<div>()</div> <div>紙芝居で伝える</div> <div>電磁波について</div>	<div>()</div> <div>野球マンガ</div> <div>生物種の絶滅について</div>	<div>()</div> <div>絵やポスターで伝えたい</div> <div>オゾン層破壊について</div>	<div>()</div> <div>ホームページで伝える</div> <div>オゾン層破壊について</div>	<div>()</div> <div>歌やポスターで伝える</div> <div>栄養失調の人々が平和にする方法について</div>
<div>()</div> <div>新聞か本で広める</div> <div>酸性雨について</div>	<div>()</div> <div>紙芝居で伝える</div> <div>電磁波について</div>	<div>()</div> <div>スポーツになぞらえた劇で伝える</div> <div>酸性雨について</div>	<div>()</div> <div>募金活動をする</div> <div>ボランティアの方法ハンバーガーと食いたい人々の関係について</div>	<div>()</div> <div>百人一首</div> <div>オゾン層破壊について</div>	<div>()</div> <div>百人一首</div> <div>オゾン層破壊を防ぐ方法を調べていきたい</div>
<div>()</div> <div>劇にしてあらわす</div> <div>トキなど絶滅しような動物について</div>	<div>()</div> <div>ミニチュア動物園づくり</div> <div>絶滅した虫や動物などについて</div>	<div>()</div> <div>わたしたちができるボランティア</div> <div>飢餓と貧困について</div>	<div>()</div> <div>4コママンガで伝える</div> <div>資源をむだづかいしない方法について。</div>	<div>()</div> <div>募金活動をする</div> <div>飢餓と貧困について</div>	<div>()</div> <div>絵やポスター</div> <div>絶滅していった動物や昆虫のことについて</div>

学級総合のテーマ一覧の座席表

この座席表から、子どもたち各自が学級総合に対して、自分なりのテーマを持てたことがわかるであろう。そして、これらのアイディアをポスターセッションで交流し合うことにした。子どもたちには、各自のテーマについて一覧となっている上記のような座席表を渡して、自分の聞きたいところを選んで聞き合うことにした。伝える側はどの子も一生懸命発表し、聞く側も座席表

を見て動き、聞きたい発表者を選んで、自分のやり方と比較しながら聞いていた。

しかし、聞く視点が曖昧だったため、発表者に質問することがあまりできないばかりか、自分のプランに友だちのアイディアをどのように取り入れるかもはっきりしなかったため、自分のプラン変更につながりにくい面もあった。K児のプリントを見ても分かるように、「参考になったプラン」の



ポスターセッションの様子

参考になったプラン

。 さんのプランで「金沢のザリガニ」
電話からでている電波をグラフや表で表わす方法が良かったが、まだ考えていないので「ザリガニ」のプランを参考にしたいと思います。

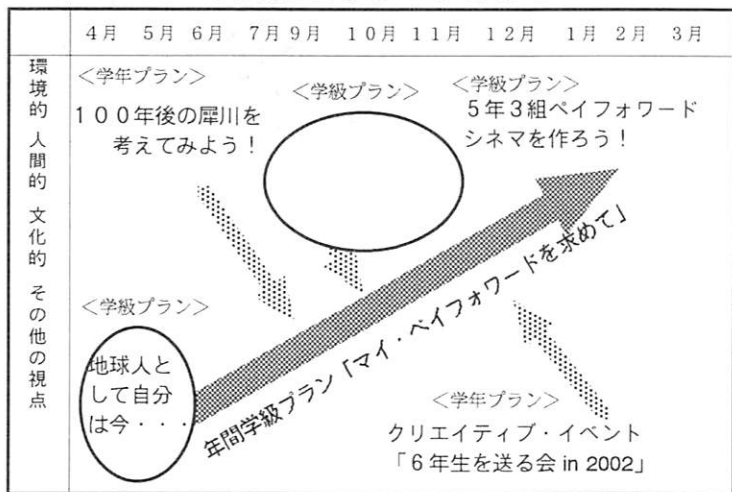
K児のプリントより

欄にしっかり書き込みをした子はK児のほかわずか3名だった。ただ、同じテーマでプランを実行しようとする子同士が、ともにやっていると相談し合ったり、これからのプランをさらに練り直す場面が見られた。そういう点では、この交流は有意義であったように思われる。やはり、まず同じ切り口や方法の子同士の交流の場を持って、そのあとに他の切り口や方法の子の取り組みを交流するという2段階に分けた会の持ち方の方がより効果的だったのかもしれない。

②年間計画を立てることを通して

自分なりに年間の大まかな見通しが持てたか

《学級テーマ》 宇宙船地球号 ○○○○・・・！



この交流の後、「マイ・ベイ・フォワードプラン」の年間計画を立てた。子どもたちに左のような大まかな年間プランを見せながら、相談し合った。学年プランや学級プランの位置づけを左表で確認しながら、この本単元のあと、学級プランとして、何をどのように進めていくか話し合ったわけである。（左表の大きな○の部分の中身を話し合った）その結果、1学期は各自のテーマをインターネットや図書資料などでくまなく調査する調べ活動中心の期間とすること、2学期は各自が調べたことをもとにプランを練り直し、実際に行動化していくとともに、実際に

ボランティア活動している人との交流をする期間とすること、3学期は年間の各自の行動を映画化していく（5年3組ベイフォワードシネマ）期間ということになった。また、学級総合プランのテーマの方は、左表にあるように『宇宙船地球号○○○○・・・！』というように中抜きの状態で提示し、子どもたちに総合プランにふさわしいテーマを話し合った。日頃あまり発言もせず、本単元の導入時では学習に対して消極的な態度を見せていたあのY児がアイディアを出し、それがクラス全員の承認を得て、次のような学級テーマに決まった。

『宇宙船地球号 楽しい世界をつくらう』

教師の想いとしては、○○の部分に

これから始まる学級総合について自分の思ったこと・考えたこと

＜思ったこと＞	考えたこと
シネマをつくるのがどんなのに なるのかかたのしみです。そして 協力と自分を試してがんばり たいです。そして宇宙船...号は どんなのに人しん（というが...）す る人かた	どうしたら宇宙船地球号が ちゃんとたてがまはれるか な。そしてシネマを作るとき はクワイズも入れたらいい とおもう。

N児の感想より

「愛モード」というフレーズを入れたかったのではあるが、子どもの思いを優先することにした。Y児が「楽しい世界をつくろう」というフレーズを思いついたということは、それだけこれから始まろうとしている学級総合が楽しみなんだという期待感の表れであると推測している。また、Y児だけでなく、どの子もこれから始まる総合学習に期待を寄せるようになった。N児の感想（前項参照）から、その期待が伺えるであろう。以上のことから、大まかな年間プランを中抜きにして提示し話し合うことは、今後1年間の自分なりの活動に対する期待感を持つことに有効に働いたと考える。しかし、全体としての見通しを立てるにとどまり、子ども一人一人に合った形の年間活動計画を立てるまでにはいたらなかった。時間的な余裕がなかったことと、まだ各自のテーマに対する追求方法の具体的なイメージを持たせるまでにはいたらなかったためである。今後、学級プランの単元のはじめの段階ごとに自分の計画を見直し、修正を加えていく機会を頻繁にもちながら、活動を展開できるようにしていきたい。

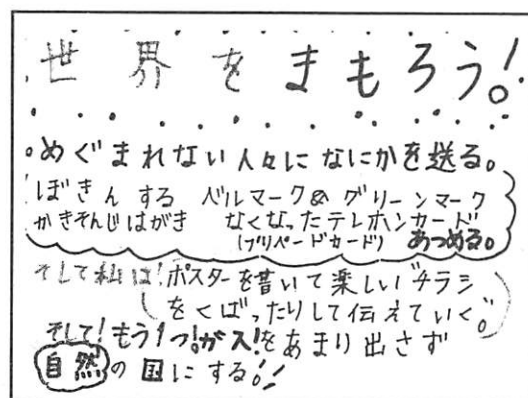
(4) 単元を終えて

子どもたちは、当初曖昧だった学級総合のイメージが教師からのメッセージやペイフォワードプランの作成などを通して、徐々に明確なイメージを描くことができたようである。それは、各時間ごとにプリントに感想を書いていくことやその感想を座席表に明示し、子どもたちに配布することで、各自の思いの変容に対する自己評価や他者評価につなげていくことができたからであろう。当初、座席表に各自の思いが明示されることに戸惑いをもっていた子どもたちも、2回3回と回数を重ねるごとに次第に慣れてきて、右記の写真のように、各自の想いとふれ合うことが一つの楽しみになってきたようである。自分の聞きたい子や聞きたい内容のある子のところへ自由に動き、それぞれの考えや想いを交流し合う姿が随所に見られたことから、この方法は有効に働いたものと考えられる。

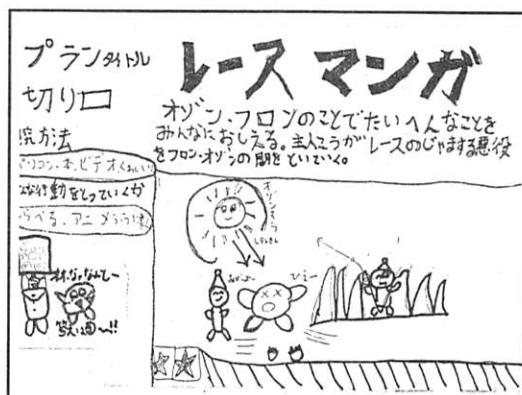


座席表による交流の様子

また、本単元でつけたい力という面では、ポスターセッションという場の設定が、表現力及び企画力の育成という面で効果的に働いたものと考えている。下の作品を見てもらえばわかるように、子どもなりの特技を生かしたプランになっている。しかし、この2つの力に対する自己評価や他者評価という面では、うまくつなげることができず、そのあたりの評価のあり方は課題が残される点である。本来もう少し時間が許されるのであれば、セッションの様子を撮ったビデオを見せたり、各自の発表物をもう一度掲示し、それをじっくり見る機会を設定したりすることで、自己評価や他者評価へとつなげることもできたと思われる。そのあたりの評価の計画性をさらに練り直して、今後の活動へとつなげていきたい。



E児のポスターセッション時の作品



F児のポスターセッション時の作品